

十三駅エリア・淡路駅エリアのまちづくり

- (1) まちづくりの新しい動きの概要
- (2) 十三駅エリアのまちづくり
 - ①基本的な考え方（案）
 - ②十三新駅の駅位置の方向性、駅直上プロジェクトの動き
 - ③今後の進め方
- (3) 淡路駅エリアのまちづくり
 - ①基本的な考え方（案）
 - ②柴島浄水場における機能集約の動き
 - ③今後の進め方

(1) まちづくりの新しい動きの概要

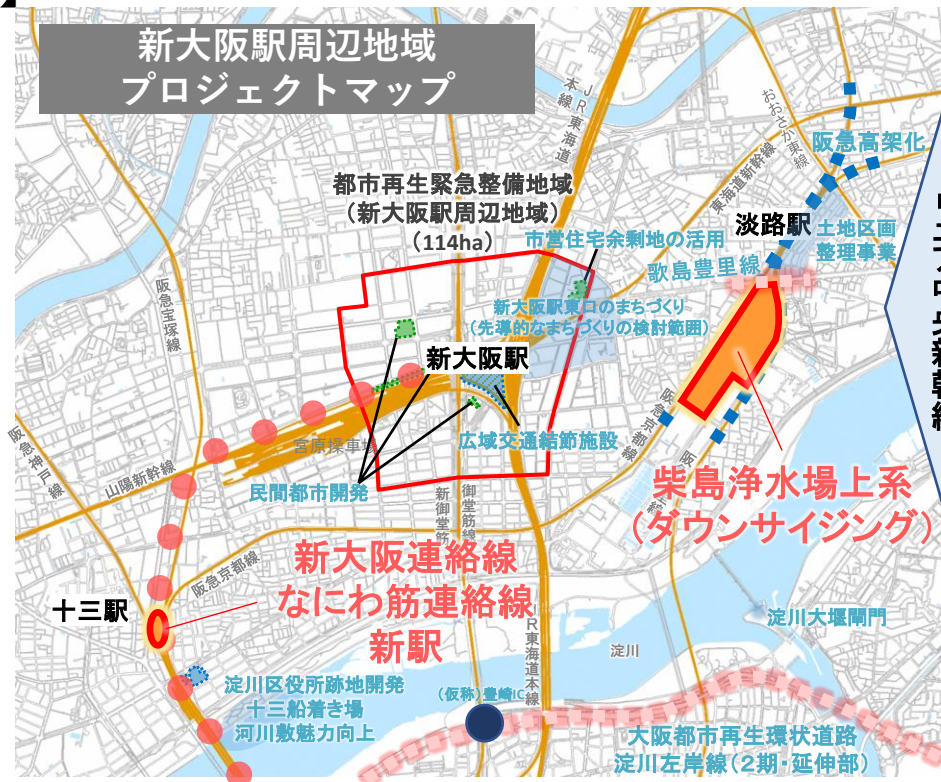
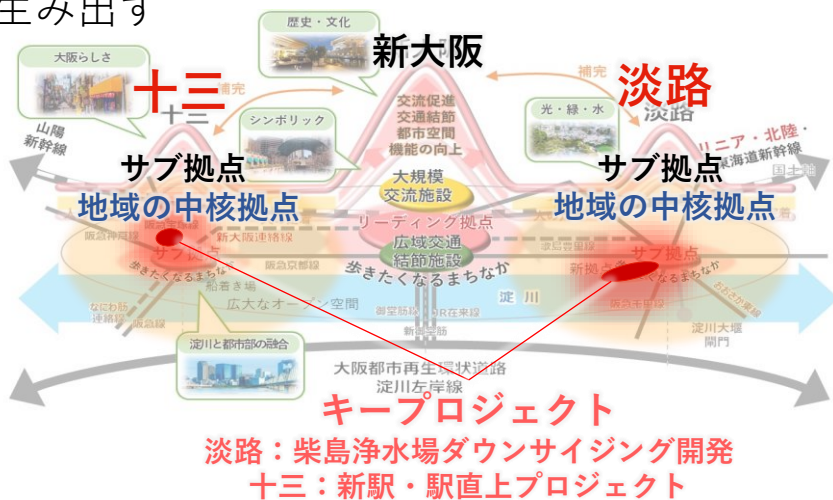
位置づけ・役割と新たなまちづくりに向けた動き

(大阪市)

【十三駅エリア・淡路駅エリアの位置づけと役割】

- 新大阪駅周辺地域のサブ拠点
- 地域におけるまちづくりの中核拠点

➡ 新大阪からの広域的な人の流れ（交流人口）
 ➡ まちと各駅の人の流れ（定着人口）
 を生み出す



北陸新幹線
 リニア中央新幹線

【まちづくりのロードマップ】

キープロジェクトの新しい動き

年度	2023	2040
十三駅エリア	基礎検討 → 新大阪連絡線・なにわ筋連絡線 駅位置の方向性	エリア計画作成 → プロジェクトの推進・実施
淡路駅エリア	基礎検討 → 柴島浄水場ダウンサイジング・阪急鉄道高架化	エリア計画作成 → プロジェクトの推進・実施

大阪の新たな広域拠点の本格始動

(1) まちづくりの新しい動きの概要

キープロジェクトの動きと大きな進め方

(大阪市)

【新たなまちづくりのキープロジェクトの動き】

(十三駅エリア)

○新駅の駅位置の方向性と駅直上都市開発プロジェクト（仮称）の始動（阪急電鉄）

(淡路駅エリア)

○柴島浄水場のダウンサイジングプロジェクト（仮称）の始動（大阪市水道局）

【新しいまちづくりに向けた考え方】

これまでの検討を踏まえ十三駅・淡路駅エリアにおいて、3つの内容を整理

○まちづくりの基本的な考え方

○キープロジェクトとまちづくりの関係性

○今後のまちづくりのスケジュール

【大きな進め方】

「早期のPRの必要性」と「エリア計画策定」

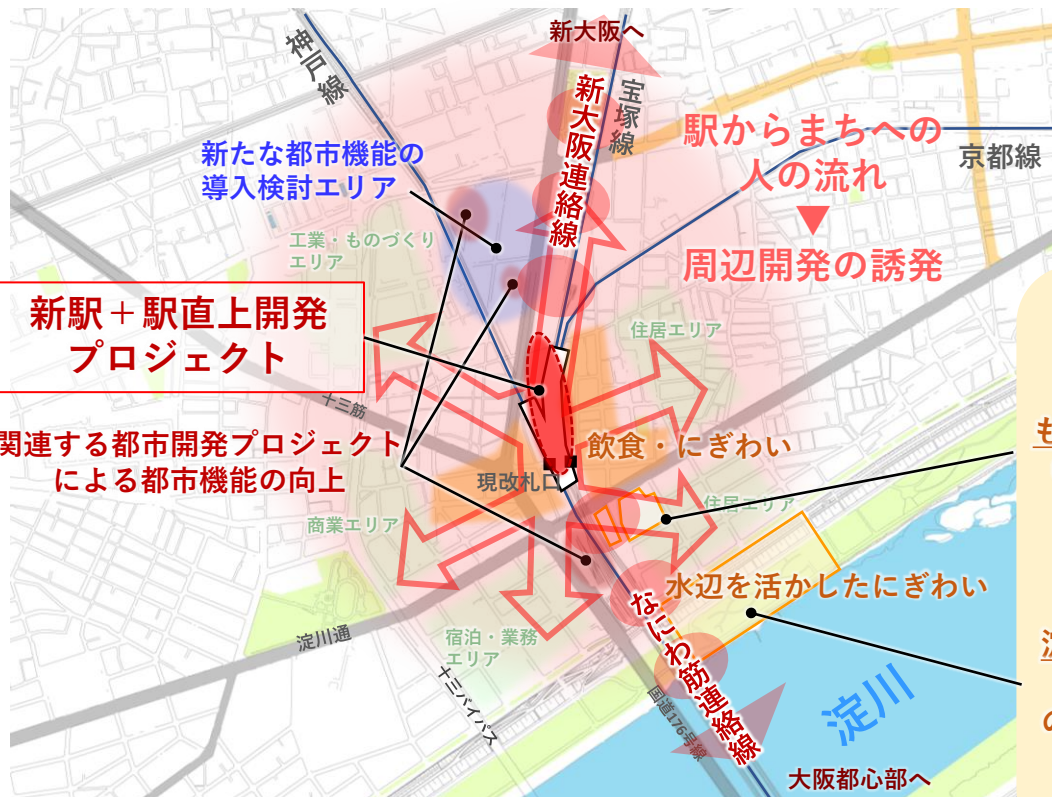
(段階的な充実)

【大きな方向性】

- 阪急京都線、神戸線、宝塚線に加えて新大阪連絡線・なにわ筋連絡線の4線の駅となるエリア
- 新大阪駅周辺地域のサブ拠点、地域のまちづくりの中心拠点という両方の視点を踏まえたまちづくり
- 新駅および新駅直上プロジェクトの2つのキープロジェクトに連動した、新たな関連開発プロジェクトにより、駅中心に居心地がよく歩きたくなるまちなかを形成し、エリアの価値向上を図る。

【まちづくりの大きな進め方】

- 新駅の概ねの位置の方向性と直上プロジェクトなどの動きを示し、早期からのPRを展開することにより、さらなる都市開発を誘発する。



【まちづくりを進める上での配慮事項】

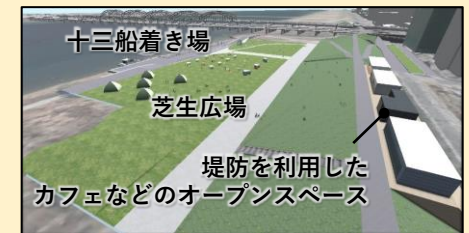
- キープロジェクト、関連都市開発と進行中の図書館や水辺のプロジェクトとの連携による相乗効果を図る。

進行中プロジェクト

もと淀川区役所跡地等活用事業
(図書館、学校施設、住宅)



淀川河川敷十三エリア
(河川空間におけるにぎわいの創出)



【新大阪連絡線・なにわ筋連絡線の検討状況】

■概要

- ・ 阪急主要路線が合流する十三駅を經由し、なにわ筋線と新大阪駅とを直結させる路線を整備する。
- ・ なにわ筋線との相互直通を想定し、狭軌にて整備。
- ・ 基本的に地下ルートでの整備を想定。

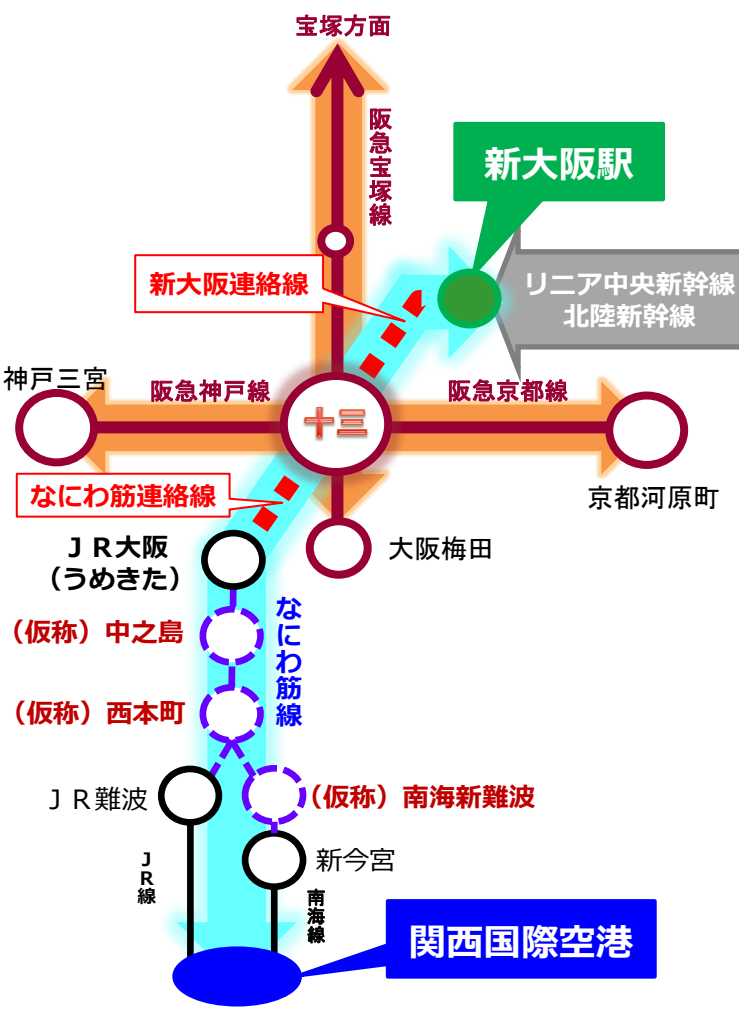
■事業効果

- ①新大阪駅エリアと十三駅エリアの鉄道ネットワークの整備
- ②阪急沿線から新大阪及び関西空港のアクセス強化
- ③新大阪～大阪間の複数ルート化による、より一層のリダンダンシー強化
(地下トンネルでの淀川渡河ルートの確保によるルートの強靱化)

※近畿圏における空港アクセス鉄道ネットワークに関する調査(国土交通省、2018年4月)において、事業性について一定の評価が得られている。

■現在の検討状況

- ・ 十三駅 駅位置の方向性について概ね決定
⇒ 既存十三駅直近の阪急用地内(地下でのホーム設置)
- ・ 新大阪駅 リニア・北陸新幹線の駅位置に応じて確定予定
- ・ 大阪駅 なにわ筋線との接続方法を検討中
- ・ 事業手法、路線の線形については引き続き検討中

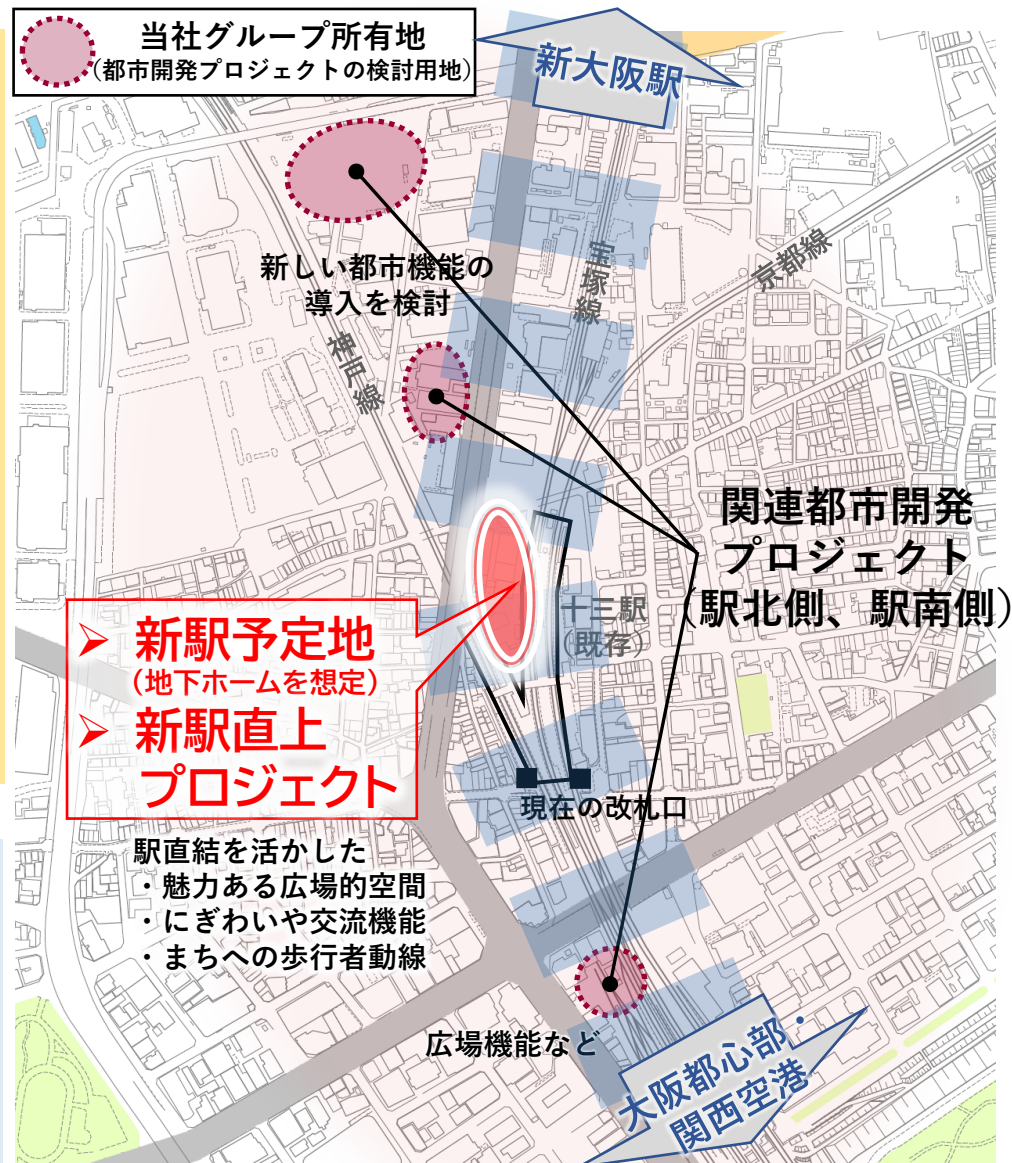


【新駅・駅直上プロジェクトについて】

- 連絡線の十三新駅は、既存駅北側（神戸線、宝塚線との間）の当社用地内で整備する計画を進める。
- 世界・日本の各地とつながるまちの新たな玄関口として、駅からまちに降り立つ空間の魅力を高め、まちの価値向上を図る。
 - 駅出入口の位置の検討
 - 改札ーコンコースーまちへの空間づくり
- 新駅の直上には、駅直結の強みを活かして、キーコンテンツとなる機能導入を図り、十三駅エリアの目的地化をめざす

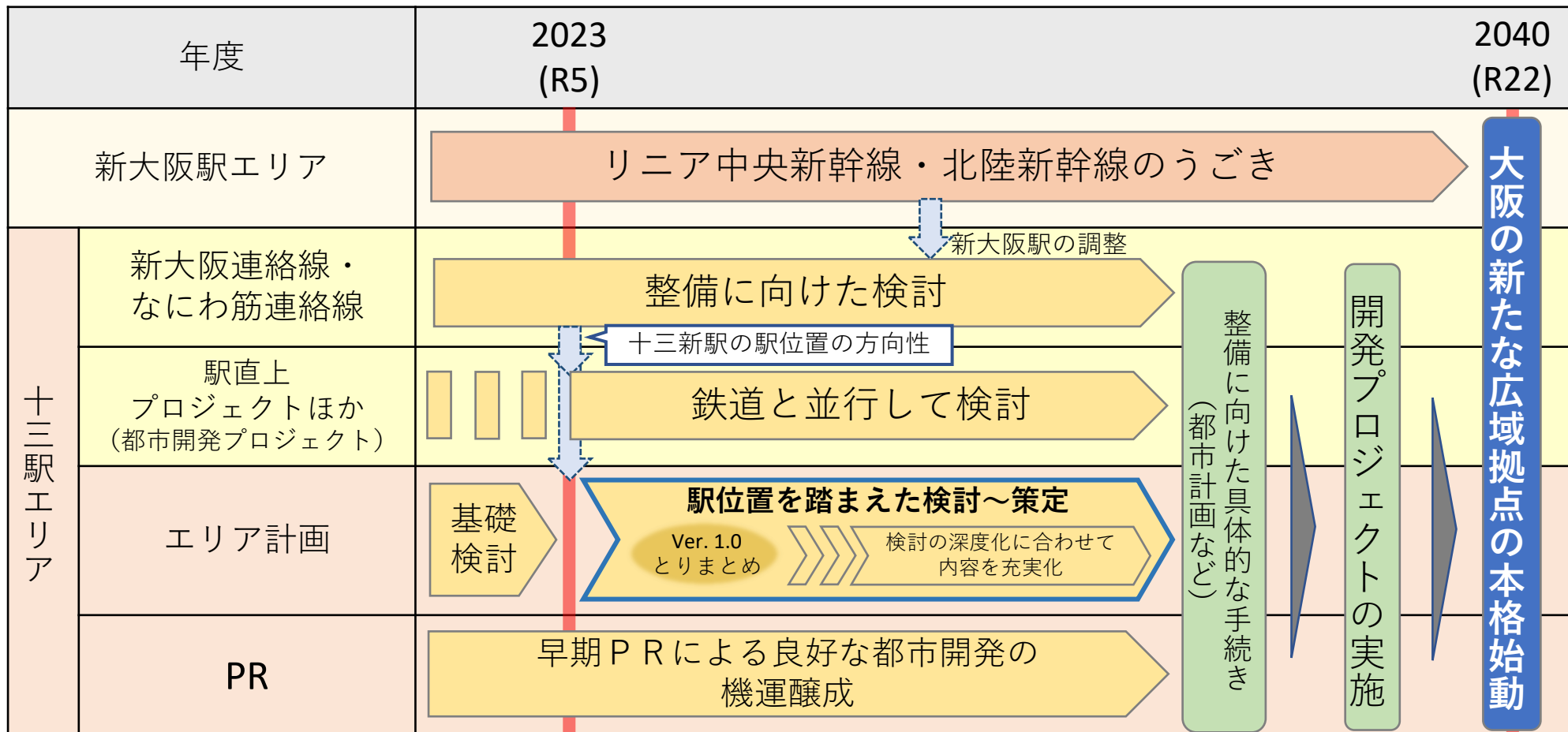
【関連都市開発プロジェクトについて】

- 駅南側、駅北側の当社用地を活用し、新駅・駅直上プロジェクトに連動した複数の新たな都市開発プロジェクトを展開
- 新駅・駅直上プロジェクトの機能を補完しエリアにおける都市機能（交流促進機能、交通結節機能、都市空間機能）の面的充実を図る。



駅からまちにつながる空間の演出により、
 駅まち一体の歩きやすく居心地の良い空間づくりを進める

○2040年における広域拠点の実現を目指して、新大阪連絡線・なにわ筋連絡線の整備に向けた検討を進めつつ、都市開発プロジェクトの検討を進める



○新駅の概略位置を示すととともにキープロジェクトである駅直上プロジェクトの進行などにより、**エリアのポテンシャルが高まっていくことをPRして**、良好な都市開発プロジェクトを誘発していくため、早期にエリア計画 Ver. 1.0 としてとりまとめたい。

(新大阪連絡線・なにわ筋連絡線の整備計画が確定するまでの間に、検討の深度化に合わせて段階的に充実化)

【大きな方向性】

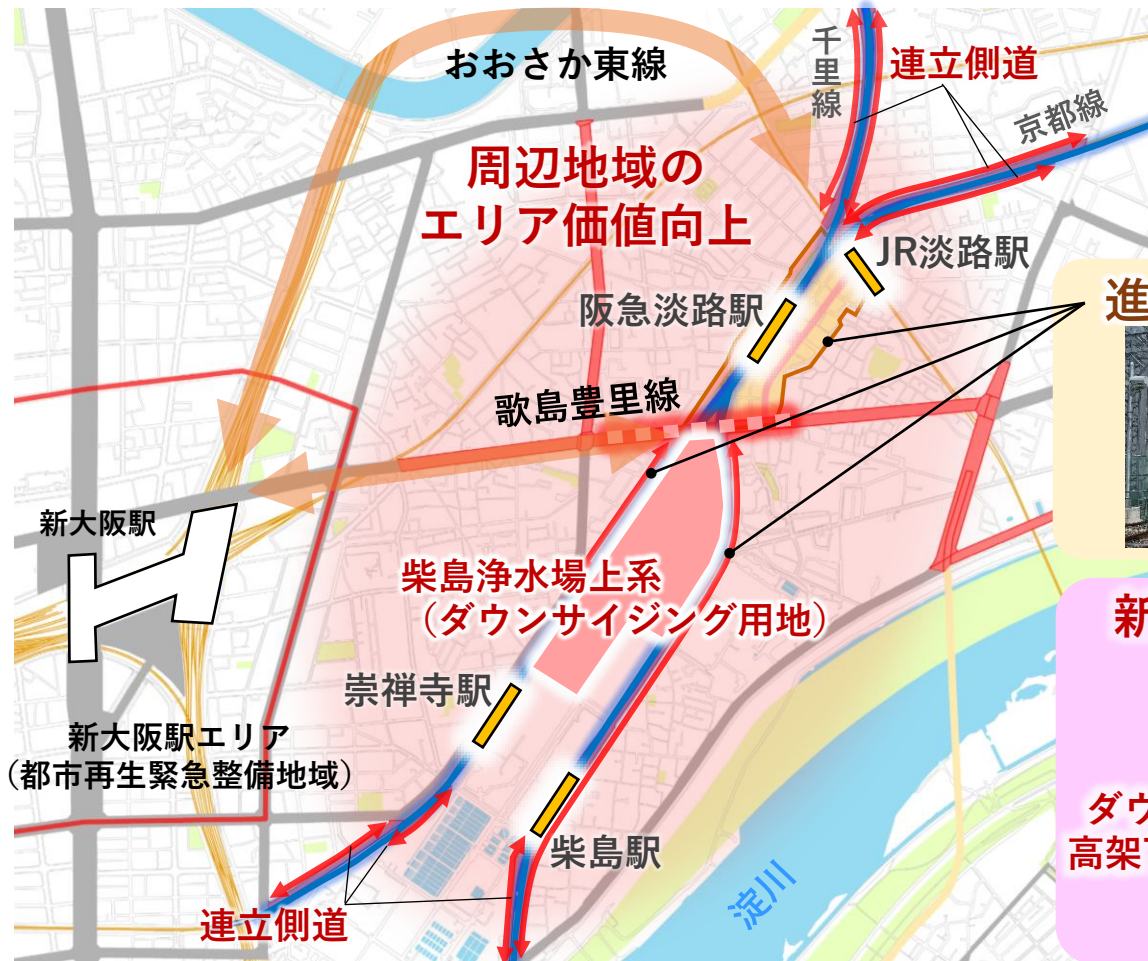
- 阪急京都線、千里線とJRおおさか東線の鉄道3線、4駅が集まるエリア
- 新大阪駅周辺地域のサブ拠点、地域のまちづくりの中心拠点という両方の視点を踏まえたまちづくり
- 柴島浄水場ダウンサイジング用地開発プロジェクトと阪急高架下空間開発プロジェクトを中心に、4駅間の歩行者ネットワークを強化し、居心地がよく歩きたくなるまちなかを形成し、エリアの価値向上を図る。

【まちづくりの大きな進め方】

- 広大な開発用地があることについて 早期からのPRを実施し、良好な都市開発を誘致する

【まちづくりを進める上での配慮事項】

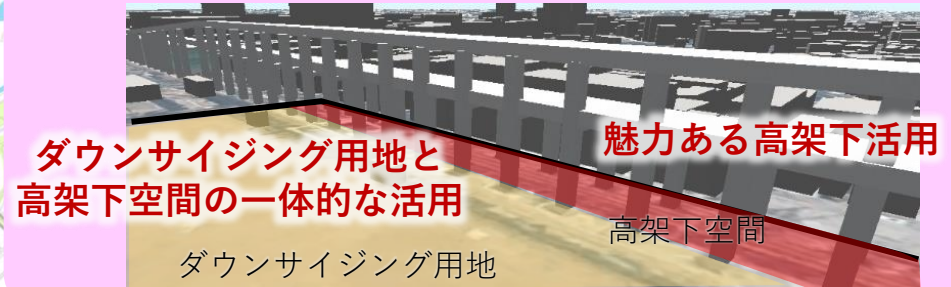
- 進行中のプロジェクトと、新たなまちづくりとの連携による相乗効果を図り、エリア価値の向上につなげる。



進行中プロジェクト



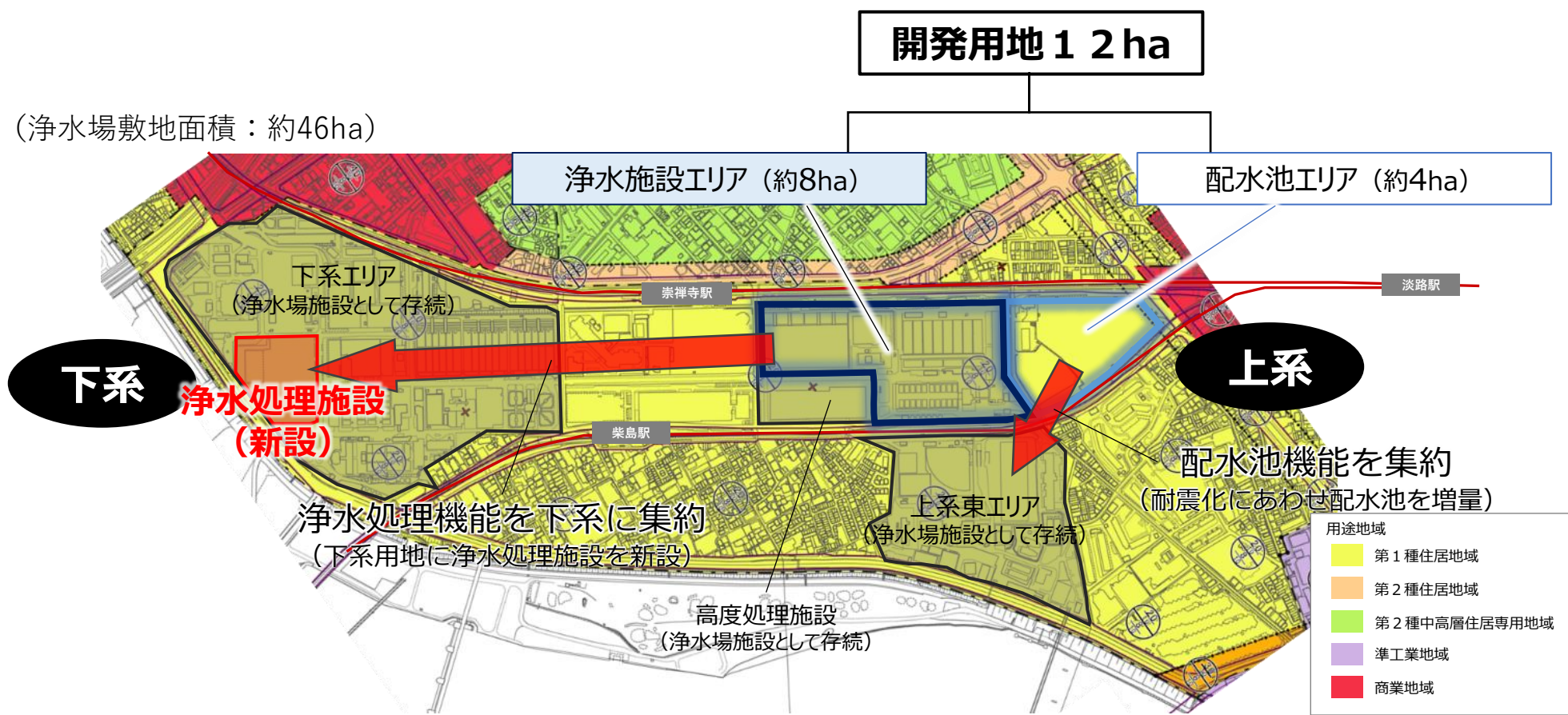
新たなまちづくり



【機能集約に向けた整備の概要】

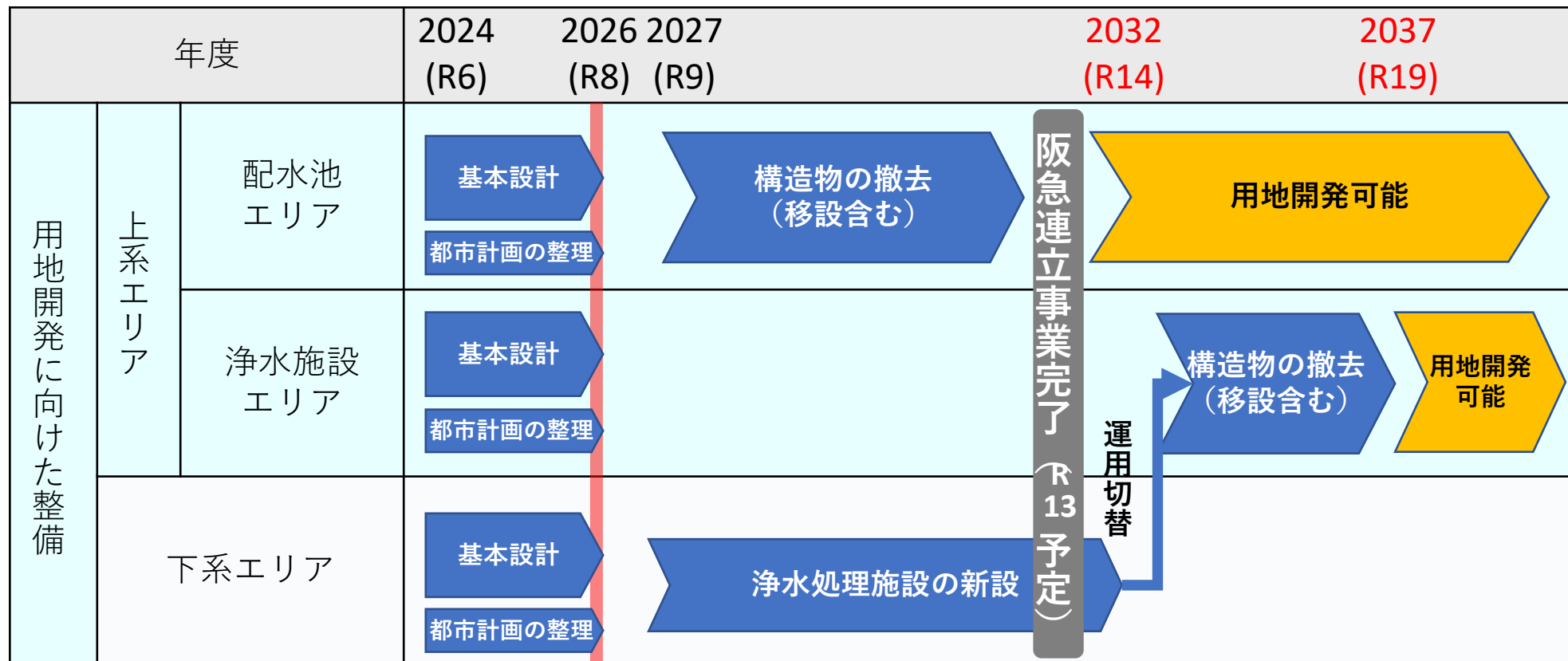
○柴島浄水場の用地を将来のまちづくりに最大限活用する観点から、上系用地の一部にある機能を集約・集約し、**約12haの開発用地を生む。**

- **配水池エリア (約4ha)** 上系東エリアの配水池を増量することで、配水池機能を集約
- **浄水施設エリア (約8ha)** 下系エリアに浄水処理施設を新設することで、浄水処理機能を集約

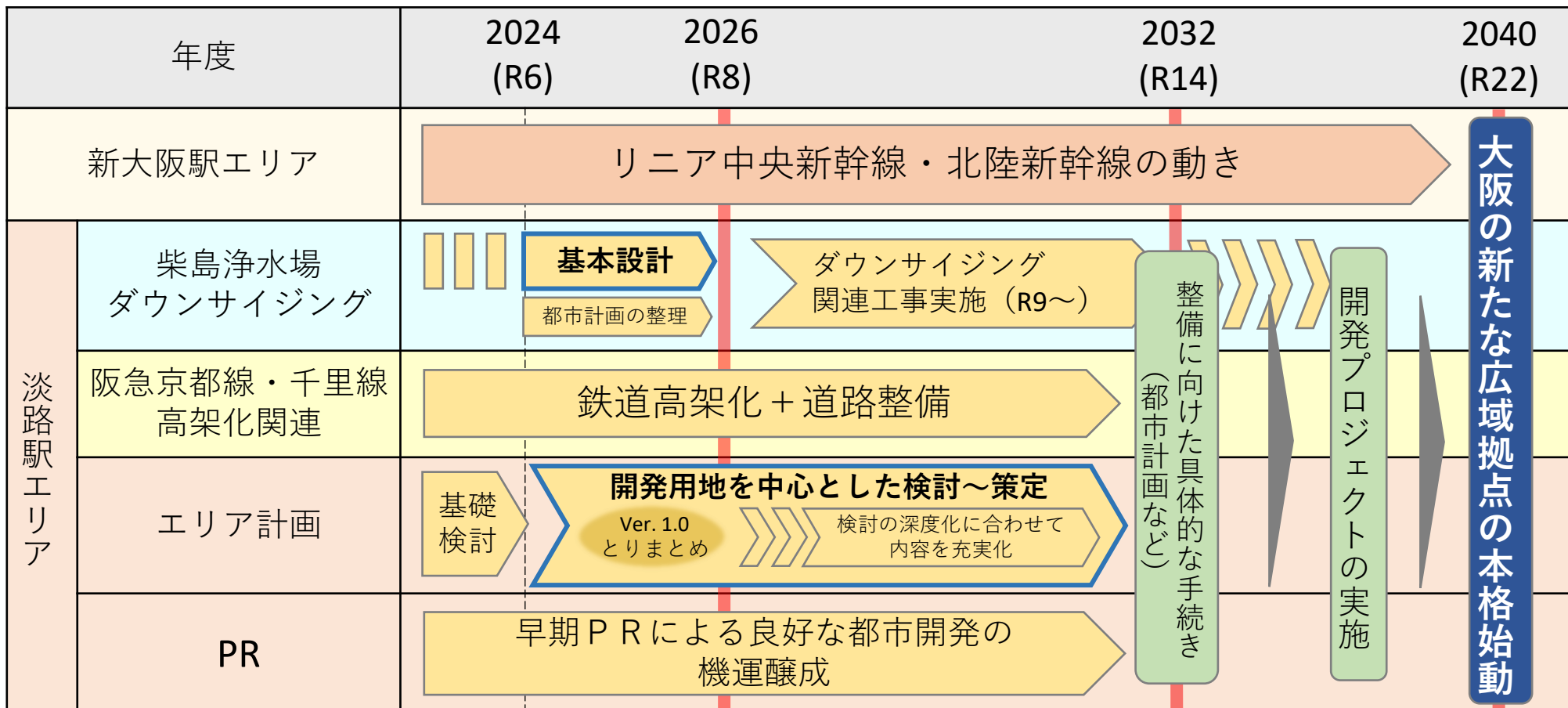


【12haの大規模開発用地を生み出すステップ】

- 2024～2025年度にかけて、浄水処理機能集約（浄水処理施設の新設、既設の撤去）に向けた基本設計などを実施
- 2027年度から浄水処理機能集約の事業実施
- 2032年度に配水池エリア（4ha）、2037年度に浄水施設エリア（8ha）が活用可能



- 2024年度の柴島浄水場のダウンサイジングに向けた検討を契機として、ダウンサイジング用地を中心としたまちづくりの検討を進める。
- ダウンサイジング用地が活用可能となる2032年度より開発プロジェクトの実施に向けた取組を開始し、2040年における新たな広域拠点の実現までのまちびらきを目指す。



- 新幹線駅に近い大規模な開発用地の存在を早期からPR**して、良好な都市開発プロジェクトを誘致していくため、早期にエリア計画 Ver. 1.0 としてとりまとめたい。
(用地開発が可能となる2032年度までの間に、検討の深度化に合わせて段階的に充実化)